

# 舞台テレビ照明家協会 ニュース

## NO. 55

昭和43年3月10日 印刷  
昭和43年3月20日 発行

発行者 東京都渋谷区千駄谷3丁目51番4号 舞台テレビ照明家協会 小川昇 TEL 404-2611  
編集者 舞台テレビ照明家協会事務局 印刷所 株式会社新宿印刷

### 新年度

### 第一回理事会開かれる

#### 第一回理事会

日時 三月七日 午後一時  
場所 中央区立銀座東区民館 五号室  
出席者 岩品・石塚・石山・原田・星・  
布川・大庭(代)・河合・梶・高  
橋英・高柴・相馬・辻本・中村  
山本・前田・丸岡・松野・小島  
阿部・佐藤・清水・小川

#### 委任状

大田・和田・梶田・吉田・浦田  
牛丸・小林・青木・浅沼・秋本  
宮尾・篠原 計三十五名

開会に先立ち年間理事会の議長を設けることが提案され、討議の結果、本日の理事会議長を文け決めて、進行し、年間議長は次同理事会に計ることになり、全員にて山本順三氏を議長に推薦して会議に入る。開会一時三十分。

#### 役員選出の件

出席者二十二名と委任状十二名により選挙し、これを推薦することになった。その結果 会長 小川昇。理事長 高橋英吉(日本教育テレビ)。事務局長 阿部吉之助。監事 大庭三郎・和田光弘・松崎国雄。常任理事 岩崎令児・石塚哲郎・布川重夫・梶孝三・梶田義昌・立木定彦・高柴正夫・土村晶・塚原清・山本順三・前田二郎・青木久一・浅沼貢・秋

### 昭和四十三年役員

会長	小川昇
理事長	高橋英吉
事務局長	阿部吉之助
監事	大庭三郎
	和庭光弘
	松崎国雄

飯塚勝美	岩品健介	岩崎令児	稲垣学	石塚哲郎	石山和夫	原田新平	星田金次郎	布川重夫	大庭三郎	大田弘道	大杉茂幸	和田光弘	河合浩三	梶孝三	梶田義昌	吉田定彦	高岩定彦	高橋英吉	
明治座	産経ホール	フリーブロック	松崎照研	日本教育テレビ	CCK	SLK	オガタステージ	明治座	大庭照研	小川照研ブロック	東宝ブロック	共立	日本テレビ	フリーブロック	共立	東京舞台照明	国立劇場	NHK・TV	教育テレビ

高柴正夫	相馬清恒	土村晶	塚原清	辻本晴彦	中村哲也	浦田謙二	牛丸茂	山本順三	前田二	丸岡寿郎	松野武昭	松崎康道	古谷誠一	小林幹直	小島成夫	阿部吉之助	青木久一	浅沼貢	秋本道男	佐藤元彦	澤田祐爾	宮尾益美	篠原久	清水義方
東京12チャンネル	歌舞伎座	NHK・テレビ	新橋演舞場	フリーブロック	教育テレビ	静岡地区	東京舞台照明	国際浅草地区	東京舞台照明	共立	共立講堂	松崎照研	厚生年金会館	ASG	演芸場浅草地区	フリーブロック	日本テレビ	グループSLS	東京舞台照明	フリーブロック	日生劇場	東京舞台照明	共立	統一劇場

(順不同)

本道男・沢田裕爾。(順不同)  
なほ相馬清恒氏は種々の理由により辞退  
常任理事選出者の内、出席者に意示確  
認をおこない、出席者はこれを承諾、欠  
席者岩崎令児氏については梶孝三氏、立  
木定彦氏・沢田祐爾氏は事務局、土村晶  
氏は高柴正夫氏、梶田義昌氏は丸岡寿昭  
氏、塚原清氏は相馬清恒氏、青木久一氏  
は河合浩氏、浅沼貢氏は原田新平氏、秋本  
道男氏は前田二郎氏に、それぞれの方よ  
り意示確認を得ていただくことを要請し  
若し辞退の場合は定員数十五名を守り、  
次点者を繰上げること決議し、これを  
事務局に委任。

三月十日現在で欠席者全員の常任理事  
受諾の確認がとれ、選出者全員常任理事  
に決定した。

又 協会事務局が東京舞台照明にあるの  
で前田二郎氏に事務補佐を全員にて要請  
した結果、これを承諾していただいた。

監事三名中の一名が常任監事の規定があ  
りこれを監事三名で決めることに了承  
運営方針の件

議長より出席者より本年度運営に関する  
意見を求め、これを常任理事会の議題と  
する旨の発言があり種々の意見が活発に  
討議されこれを整理すると左の通り。

- 一、従来の懸案事項の完成促進
- イ 会報出版の件
- ロ ハンドブック作成の件

ハ カラーフィルター色彩基準に關  
する件

ニ 設備基準に関する件

ホ 協会の一本化に関する件

ヘ ランク、ライセンス問題に關す  
る件

なほこのうちハンドブック作成を最  
優先にせよとの意見が出た。

二、 協会の交流(他の職場)の活発化  
イ 各職場の見学

従来の見学会で日付限定は仕事  
の関係上、参加できない者が多  
いので、協会の手で随時、見学  
の方法がとれないか、又公演の  
見学会を会員証で出来るよう協会  
で働きかけないか

展覧会等を開催して、協会の  
交流の場に出来ないか

ニ 多くの協会員が参加出来るスポ  
ーツの開催、懇親会の開催

三、 部会活動の活発化  
部会の編成機構を規約に成文化し部  
会に対し協会として予算編成し部会  
活動を助成すれば、未端の意見も協  
会に反映すると意見が多く出た。

四 協会財源に関する件  
賛助会員の未収会費の取扱方法、賛  
助会員の集金方法、賛助会員の加入  
促進、NHKの助成金に關すること  
に就いて再調査

五、 協会の事業に關する件

今年度は是非、協会のPRと事項を  
つくりあげるべきである。これには  
会員の犠牲の上のことをつくり出さ  
なければならぬのでこの気運を盛  
り上げる努力を各自が持つように働  
りかける。

新入会員審査  
飯島万成(東証ホール所属)経験四年紹  
介者滝博夫正会員

審査の結果これを承認、三月よ  
り入会

長期会費未納者に関する報告  
未納者に対し最後の通知をして処理す  
ることが報告され、これを了承  
十七時閉会

事務局通信

住所表示変更(順不同)

大田弘道 中野区中央四丁目二番五号  
三八一八六四一

齊藤 決(都内センターホール)世田谷  
区世田谷代田二丁目三番八号  
柴崎荘

河西祐浩(松竹演芸場)練馬区下石神井  
二丁目二七〇番地 白堊荘

藤本晴美(CKK)港区六本木六丁目四  
番十一号谷沢ビル内

秋山易三 西多摩郡秋多町雨間五九〇六  
号

坂下幸男(CKK)杉並区阿佐谷北四丁  
目六番二十七号 みすず荘

所属変更(順不同)

塚崎嘉治 フリーより松崎照研へ

橋本英一 十二ちゃんよりTBSへ

松川直弘 共立よりフリーへ

電話開通  
小島成夫(松竹演芸場)八八七七〇二四  
氏名変更

加藤一夫(共立)結婚のため内藤一夫に  
変更

退会者  
後藤秀吉(共立)、樋口昌弘、対島勝衛  
(SLS)三名転職のため

別府正雄(厚生年金ホール)大坂転勤  
神田香男(浅草電気館)職制変更

塩見伯方 移転のため(豊橋市老松二二  
番地)

新入会員紹介(其の一)  
会田昌昭(あいだまさあき)

川崎市本月三の一〇四三  
静和荘内

昭和三十六年七月東洋興行  
KKに入社、照明に従事、  
現在フリーにて照明に従事

丸茂舞台、

テレビ照明用機器展示会

期日 昭和四十三年三月二十八日—三  
十日 午後一時—五時

会場 丸茂電機株式会社  
千代田区神田須田町一—二四  
電話(二五二)〇三二二番(代)

国電神田駅下車 徒歩三分  
地下鉄銀座線神田駅須田町下車

## 第三回総会議事

二月二十二日歌舞伎座特別食堂に於て  
開会 八時三十分(記録、河合、辻本)  
司会 青木久一  
議長団 司会者一任で布川重夫、原英一  
両氏を指名。

資格審査(議長団より午後八時三十分現在で出席者四十二名、委任百九十五名、計二百三十七名、(一月末三百九十九名)過半数以上で総会成立の宣言があり開会す。

## 会長挨拶

昨年度の活動を反省して本年度は新理事選出には重々とお願しましたので、役員選出の際は充分に協会員の意志を反映でき、流会のない執行部を構成され協会活動が活発になることを希望するとの挨拶があり、  
続く懇親会で、日頃願の合せない仲間が大いに話し合せて欲しいとの希望が述べられた。

## 一般報告

## 理事長

臨時人件費値上げ問題これに関連して事業者連盟設立問題が起き種々な論争がおきた。東芝でのSCR製品の見学東芝研究陣の努力で我々が望んで居ったカーブに近くなったことに感謝する  
会員名簿の製作、器具記号ゴム印の発行等があり。

昨年度を回顧して、一般に不調であっ

たことを反省し、

東京担当の協議会会報も現在、今だに発行されず速急に対策をたてたい。

来期は協議会に持ち出されて統一問題ハンドブックの発行、技術向上の問題と重要問題山積の現在、

協会員の協力が必要であると、報告された。

## 四十二年度決算報告 別表参照

理事長より説明、質疑なくこれを承認

## 四十三年度予算報告 別表参照

理事長より説明、質疑なくこれ承認

## 会則変更に関する件

会長より、役員に事務局長を入れる提  
定理由が説明されこれを全員にて承認  
可決す、関連改訂文

## 第四章 役員

第十一条この協会に次の役員を置く  
会長一名、理事長一名、事務局長一  
名、常任理事十五名以内、理事正会  
員の五分の一以内、監事三名以内

組合長、理事長、事務局長、常任理事は前項の規定にかかわらず理事と  
する。

第十二条会長・理事長、事務局長、  
常任理事は理事会に於て正会員中より推薦決定し、任期は一年とする。  
但し再任は妨げない。

第十六条役員の仕事は次の通りとする。

一、会長はこの協会を代表し、会務

を総理する。

二、理事長は会長を補佐し、常務を  
処理し、会長事故あるときはその  
職務を代理をする。

三、事務局長は協会の事務を処理す  
る。

四、常任理事は会長、理事長、事務局  
局長を補佐しこの協会の会務を  
分掌する。

## 五、六、省略

## 第五章 会議

第二十一条会長、理事長、事務局長  
常任理事は常任理事会を構成し会務  
を審議執行する。

第二十二条理事は理事会を構成し総  
会に於て次の事項を議決する。

一、二、三、四、五、六、八、九、  
省略

七、会長、理事長、事務局長、常任  
理事、監事の選出、以上

## 四十三年度事業計画審議

会長より会員諸君よりいろいろ提案し  
て欲しいとの発言があり。

## 大野洋会員より発言

一昨年から計画に上っている「ハン  
ドブックの発行」「設備基準委員会」  
についてその後の経過について質問  
会長答弁

ハンドブックに就いては資料は大分集  
まっているか編集等に問題があり、記事  
は逐次、ニュース、会報等にのせてき

てすでに二、三はニュースにのせた。

今年度には是非発行を実現したい。  
設備基準委員会は、協会の現状では荷  
が重いので、四十年度の理事会で、記  
号統一問題、ハンドブック製作を先行  
させることが決定して居る現状である

(四十一年一月発行ニュース三十五号  
参照)、近い将来、ホール協会との話  
し合いの機会があったら提携してい  
きたいとの趣旨を説明、

## 大野洋会員より発言

今年度の会運営に怠惰が感じられるが  
執行部、理事の責任追究があり。  
会長答弁

指図された通り、今年度は執行部の不  
調が目立ち、書面理事会等を開いて、  
執行部の不信を問い、回答を求めたり  
した。来期は執行部の選出には充分に  
注意して、本人の確認をとり、流会の  
ない執行部とし、理事会も活発に開く  
よう、次期の方にお願したいが、同  
時に、協会自身も、もっと協会のこ  
とについて考へていただきたい。この

協会は何時も述べている通り、専従者  
が居らず、皆様の仲間が盛り上げて居  
るので、役員以外の方も平常、  
建設的な意見を理事通じて協会に反映  
していただきたい。これあって協会が  
発展するのではないかとの発言があっ  
た。

来賓挨拶

関西照明家協会々長 岡田猪之介氏

第十三回総会を迎へられたとは大変に喜ばしいことで、関西も十一年、中部は十年とそれぞれの協会が満十年以上の歴史を積み重ねてきたが、誕生時は親睦団体としてスタートしたが、社会状況の変化で、協会の歩み方も全国が一本になってゆく時点ではないかと痛感される昨今であり、又照明という仕事をもって社会的に認識させる必要性が多々あるので、是非、東京でその活動の口火をきって欲しいのであると旨、挨拶があった。

新しい照明の世界状況

大庭三郎氏

CIEの会議に出た。光源としては何が一番良いかのテーマで、効率、寿命、演色性等よりタングステン・ハロゲンランプの実用化に関する意見が発表され、又調光装置にSCRが世界的に採り上げられて居る現状である、との報告があり続いてスライドの映写があり、さきのタングステン・ハロゲンランプのスポットクセノンランプ使用スポット、パイフオールカススポットライト(リモコンによりエッジをシャープにしたり、ソフトに出来るニュータイプ)、等を紹介し、会議ではメーカーの技術者が出席したので、使用者側との意見が直接とりかわされて非常に有意義であったと結んだ。

閉会の辞 司会者

九時二十分

統いて懇親会に移った。出席者六十四名

東芝・光研・森平・丸茂の賛助会員が出席され、各会員より多額の寄附を受けたことが司会者より報告があった。

午後十一時 会散。

第七回常任理事会

日時 二月十三日午後二時

場所 中央区立銀座東区民館

出席者 小川・前田・齊藤・大庭・高柴

青木・立木・布川・梶田・田中

連欠・穴沢・和田・阿部

議題

一、総会提案議題

会則変更に関する件

事務局局長を役員とする改訂案等

二、総会出席者促及総会成立時の確保

開会時が八時なので作業時間の関係

正、遅れる方は出席表を提出しても

らい開会時に成立さすよう努力する

ことが事務局より提案されこれを了

承。

三、協会全国統一に関する件

尚早論、慎重論、賛成論等論議多出

され、次期に継続審議となる。

四、会費長期未納者に対する督促状発送

報告

四十年末迄の未納者九名に対して

今月二十日迄の期限内で会員継続の意

示確認と納付計画を求めたことが事

務局より報告があった。

五、新入会員審査

志水康、森脇清治、土反賢二郎、熊田

則文、別所清、安田文雄、所属東京

舞台照明以上紹介者牛丸茂正会員、

佐々木広吉、郡司秋夫、所属郡山市民

会館紹介者竹下義昭正会員、高木道明

橋川功、大橋宏康、所属国立劇場

紹介者立木定彦正会員

以上審査の結果、これを承認。

新人紹介

順不同

佐々木広吉(ささきひろきち)郡山市

麓山一丁目一番十五号

郡山市民会館技術係照明主

任、昭和三十六年七月より

勤務

郡司秋夫(ぐんじあきを)郡山市希

望ヶ丘一番十四号郡山市民

会館技術係主任補佐、昭和

三十六年十一月より勤務

大橋宏康

(おおはしひろやす)豊島

区雑司ヶ谷一丁目二九番七

号太田方、国立劇場舞台課

照明係、昭和三十九年四月

遠山照研に入所、現在に至

(はしかわいさお)八王子

市安町三丁目十番三号、国

立劇場舞台課照明係、昭和

三十九年三月歌舞伎座照明

部に入社、四十一年十月国

立劇場就職、現在に至る。

高木道明

(たかぎみちあき)世田谷

区新町一丁目八番十号 国

立劇場舞台課照明係、昭和

三十七年四月柳瀬照研入所

四十一年十月国立劇場に就

職現在に至る。

安田文雄

(やすだふみお)埼玉県埼

玉郡蓮田町二丁目一番二号

東京舞台照明勤務、昭和四

十一年一月入社現在に至る

別所清

(べっしよきよし)新宿区戸

塚三丁目三四一番井坂方東

京舞台照明勤務、昭和四十

一年一月入社、現在に至る

熊田則文

(くまだのりぶみ)千代田

区神田小川町三丁目九番地

東京舞台照明勤務、昭和四

十年十一月入社現在に至る

土反賢二郎

(たんけんじろう)荒川区

東尾久四丁目三十九番二号

東京舞台照明勤務、昭和四

十年十一月入社現在に至る

森脇清治

(もりわきせいじ)渋谷区

北谷町三番清水方、東京舞

台照明勤務、昭和四十年十

一月入社現在に至る。

志水康

(しみずやすし)中野区江

古田四丁目三十四番二番福

神方、東京舞台照明勤務、

昭和四十年十月入社現在に

## 色の周辺

アメリカの劇場

と

調光装置

遠山 静雄

△東芝電設V三月号より

私は昨夏、カナダ、アメリカ合衆国、メキシコの劇場を視察してきた。視察といっても、実は舞台照明の仕事を実施してきたのであるが、つぶさにアメリカの舞台照明事情を見、かつ、体験してきたのである。戦争直前にも同じような仕事で行ったことがあるので、予想したこともあり、また予想以外のこともあり、その一端を報告しながら、日本の現状と比較してみたいと思う。

まず、アメリカの近代劇場について語ろう。

ロスアンゼルスでは私はラジオの対談放送を行なった。その際放送局の司会者の言葉によれば、アメリカで近代的な新し

い劇場が建ちはじめたのはここ五年以内だという。ロスアンゼルスには、ミュージックセンターというのがある。市庁舎近くの丘の上に大中小三つの劇場が建ち並んで、文化センターの威容を誇っている。大はドローシー・チャンドラー・パビリオンといつて座席三二〇〇、一九六四年開場、中はアーマンソン劇場、座席二一〇〇、小はマーク・テーパー・フォーラム、座席八〇〇で中小とも昨年四月完成したばかりである。

いづれも様式、設備、機能等近代的な立派な劇場である。一体アメリカでは、こうした劇場群をつくって文化センターとすることが、最近の傾向のようだ。ニューヨークのリンカーンセンターがその例である。リンカーンセンターもその規模、設備等でアメリカが世界に誇る劇場である。

舞台照明の近代的設備の焦点は、調光器とそれを使う照明方式とに絞って考えても、たいしたあやまちはないであろう。調光装置の花形は何といつても半導体方式である。ミュージックセンターはすべてクリーグル社が納入したその方式をとっている。

パビリオンにはSCR一〇〇ユニット三プリセット、五グループのコンソール（操作卓）が、客席下手の舞台寄りの調光室に置いてあった。パッチボードやユニット（SCR本体）はその二階に設置

されている。

フォーラムは円形劇場であるが、SCR二二〇ユニット、一〇プリセット、五グループで、そのコンソールは客席後方の調光室で舞台全体を見ながら操作しようになっている。

アーマンソン劇場は、SCR方式に変わりはないのであるが、その設備の仕方が基本的に違っている。

SCRユニットは、外観が東芝製のよう細長くなく、ずんぐりした形で、一個七KW用。これを二個まとめて一つのユニットラックに収納されている。

このラックは負荷へブラッグで接続する受口一二列四段、受電側の太いケーブル四本が接続されたターミナル三本の六〇アンペアエントクロードフューズ、サーキットブレーカー、各負荷回路のスイッチをもった、堅形ピノの形をしたキャビネットになっている。

すなわちわれわれが常識的に設備するところの主幹盤、分電盤、パッチボード、ユニットラックをひとまとめにしたものでキャビネットの底には自在車がついていてどこへでも移動できる。これはクリーグル製で“Controls” Type SDOという。アーマンソン劇場には、この“コントロールズ”が九台ある。（因みにSCRユニットには Electronic Dimmer Corp. N. Y. のネームプレートがついていた。）

一二ユニット九台であるから、SCR総数は一〇八となる。一ユニットは四負荷回路を受持つことができる。一〇八の調光回路に対して三六フェーダーをもつ調光コンソールが三台あって、各々独立し、移動可能である。このコンソールには一二回路の心を有する三本、の調光ケーブルがあって、一台のコンソールに三本の“コントロールズ”に接続される。ただし必要な調光回路が一二以下の場合、”コントロールズ”一台で間に合う。

さて、これらをどこに置いて操作するかであるが、日本の習慣のように一定の室に固定して使わない。自由自在に必要な場所へもってきて使う。アーマンソンでは“コントロールズ”は舞台下手の袖奥に二台、奈落に七台、まるでほうり出すように置いてあった。

これらの器具間並びに電源あるいは負荷との接続は、すべてキャブタイヤケーブルで行なう。奈落の壁に、変電室から配線された仕様 250V3Ø4W 400A のメインスイッチが四個並んでいる。メインスイッチのことを舞台用語でブルという。これからケーブルで舞台に送電する仕掛がしてある。

どこの新設劇場でも、固定した操作室が無いといえ、必ずしもそうではない。前に述べたフォーラムも固定式であり、モントリオールのポー・ロワイヤル

劇場もそうである。ポー・ロワイヤルと  
いうのはカナダ万国博覧会を期して昨年  
五月にできた新しい劇場であるが、ここ  
もモントリオールの芸術センターとして  
大中小の三劇場を一群として建築された  
ものである。ポー・ロワイヤルはその小  
劇場であるが、照明の設備ならびに方式  
は大小の劇場によって量の上に相違はあ  
るがすべて同じである。最新の立派な装  
備している。SCRはクリーグル型式R  
六六でユニット一ニKW、これが五〇  
台したがってコンソールのフェーダーは  
五〇、五段プリセット、三グループ、そ  
れにマスターフェーダーとクロスフェー  
ダーがある。わが国の歌舞伎が公演した  
中劇場(メイソニューブ劇場)は一二K  
Wデイマー八〇台、十段プリセット、一  
二〇調光回路、三グループである。

このモントリオールのプラス・デザ  
ル劇場群はいずれも調光室を客席後方に  
設け、舞台効果を見ながら操作すること  
は日本の新しい劇場と同じである。

アーマンソン劇場がどうして固定設備  
にしなかったか?そこに大きな問題があ  
る。これは日本とアメリカの興行方法の  
相違からくるものと見なすが妥当であ  
ろう。

普通の考え方、あるいは莫然とした予  
想からすれば、アメリカにはすぐれた劇  
場がたくさんあると思われるであろうが  
事実はその想像をはかるかに裏切るもの

である。

その理由は日本の場合と違い戦禍を受  
けていないから、古い劇場がたくさん残  
あてている点にある。

世界的に著名なシカゴ・オペラハウス  
は巨大なビルの中にあるが、一九二八年  
の建設当時は設備の新しい点で大いに喧  
伝されたものである。それはGE社の開  
発したサイラトロン・リアクター調光器  
を装備したからである。ニューヨークの  
ラジオン・ティ・ミュージックホールに  
もこれが取付けられ、自慢の種であった  
メキシコの国立芸術院劇場は、イタリ  
アの白大理石で造った堂々たる大劇場で  
パリのグラント・オペラ座を思わせる。  
一八一〇年の建築であるから、無論照明  
設備は取換えられ、一九三四年GE社の  
サイラトロン・リアクターが取付けられ  
た。

サイラトロン・リアクターは弱電によ  
って遠隔操作ができる点で画期的方式で  
あった。ニューヨークのミュージックホ  
ールもシカゴのオペラハウスも、そのた  
め調光操作室を舞台鼻の床下、オーケス  
トラ・ボックスに隣接して設け舞台全体  
を見ながら操作するように設計された。  
メキシコ国立劇場の場合は、最初からそ  
のように設計されなかったため舞台寄り  
客席脇のきわめて不便な場所に操作室が  
設けられている。私は勉強のためにその  
設備——当時GE提出した仕様書——を

細かに調べていたら、この劇場の電気主  
任が、何でこんな古い設備に興味をもつ  
のだとぶかしたがった。そして、来年の  
オリンピックまでにはSCRに代えて、  
正面から操作できるように改造したい  
という希望をもらしていた。実際、サイ  
ラトロン・リアクター式はもうすぐ古  
いのである。

アメリカの一般劇場はもっと古い。手  
動式変圧器を使っているところはまだ新  
しい方で、依然として昔ながらの円板型  
抵抗器を使っているところがたくさんあ  
る。シカゴ・オペラは同じ建物内に隣接し  
てシビック・シアターがあるが、抵抗調光  
方式である。かつて講和会議の開かれた  
サンフランシスコのオペラハウスもそう  
である。街の劇場、たとえばサンフラン  
シスコのカラン劇場(ここではハロード  
リーを上演していた)、ロスアンゼルス  
のハートフォード劇場など、すべて抵抗  
式である。ニューヨークのブロードウェイ  
の劇場もご多分にもれないであろう。

どうして新しい設備に取り換えないの  
か?それは経費の問題もある。しかし  
根本的にはその必要がないからである。  
というのは、アメリカでは、極端にいえ  
ば、舞台には電力の取口すなわちブルが  
一つあればよいのである。あとは興行ご  
とに全部持ち込んで臨時設備をして使う  
だから舞台はからっぽでいい。たとえ  
その劇場が装備をもっている、休場中

は全部取りはずしておく。スノコからバ  
トン(吊り物鉄管)が下がっているだけ  
の丸裸である。緞帳以外幕類ひとつない  
興行師は公演に必要ないっさいの器具  
材料、ボーダーライト、スポットライ  
ンはいらぬとおよばず、配電盤、調光器、ケ  
ーブル等を、貸し器具屋から借りて大き  
なトラックで運搬してきて取付ける。写  
真に示したのはロスアンゼルス・ミュー  
ジックセンター(立派な設備がありなが  
ら)に旅興行用の臨時配電盤、旧式な調  
光器を据付けた様子を示す。いさゝいの  
照明器具への露出ケーブルで行なう。だ  
から舞台脇にはキャブタイヤコートがと  
くろをまいてある。それを舞台用語でス  
パゲッティという。

舞台照明設備を固定するか、移動式に  
するかには問題がある。日本のように固  
定すると融通のきかない面もある。また  
同じ演目を旅興行する場合、劇場の設備  
相違のため、いちいちプランの訂正を行  
わなければならない。しかし裸舞台にい  
ちいち取り付けるとなると、時間と経費  
の無駄ができる。それでもアメリカの旅  
興行は、この方が経済的だといふ。

日本のことを語るページがなくなった  
が、半導体調光器の利用については日生  
帝劇、国立劇場等世界の水準を上回るも  
のがあり、なお各地にできる公会堂に統  
々と設備され、欧米に先んじてその普及  
を見るものと、私は考えている。